



ほっとスペース流山 たより

〈生きづらさ包括支援・自主事業〉

発行：ほっとスペース流山 ☎090-3696-1589

発行者：勝本 正實 2026年 2月 1日

メールアドレス : cq.j04465@ybb.ne.jp

No.08

☆
ご挨拶

・ほつとスペース流山のホームページのMore欄を検索していた
 だけると詳しい内容が紹介されています！



ほっとスペースを利用してくださる方は、流山市在住の方たちだけではありません。隣接市からの利用者の方も多くおられます。ですから、ズームを利用しての小グループへの参加も歓迎しています。紙面に紹介されている小グループの開催日の四日前までにお電話かメールをいただければ、アクセスコードをお知らせします。

詳しくは「ほつとスペース流山」のホームページか、QRコードで、モア欄の「詳細説明」の部分をご覧ください。隔月ごとに発行している「たより」も掲載しています。
<http://www.meentaruherusu.com>

(デジタルトビツトユウ)



- ・ 一月から三月までのイベントを紹介します

① 「親亡き後の前に何が起る」日時・一月三十一日土曜・昼十二時半から開始、会場・流山市南流山センターホール、講師・黒

澤史津乃氏（OAGウェルビー代表・厚生労働省委員）不安家族の将来に焦点を当てます。

日時・二月二十三日月曜・祝日・

流山市主催、午前10時開始、会場・

流山市南流山センターホール、講

師・小児科医・岡田剛先生、子ども

もたちの心と体の変化に気づき、

対応するための理解を深めます。

予約先・流山市障害者支援課の

○四一七—五〇一六〇八—まで

③ 「頼れる人がいない・将来が不安・生活困難・孤独などの現実の課題に取り組む」 日時・三月二

十日金曜・祝日、午前十時開始、

会場・ラコルタ柏の二階多目的研

修室（柏市役所隣り）、講師・あい

ネット所長岩永牧人氏、ほつとね

つとセンター長藤田真人氏（いず

れも生きづらさを抱える人たちを

支援されている方々)、上記テーマ

から現状と支援の実際を紹介してください。

右記の三つの集まりは、②を除いて予約は不要、入場はすべて無料です。どうぞお出かけください。

☆現在開設中の集まり紹介



ほつとスペース流山を会場に

する定期の交流会は現在、以下の五グループです。初めての方は、上記の携帯にお問い合わせください。一回の利用料は光熱費として、一〇〇円いただいています。

① **発達障害の当事者の集まり**

日時・第四日曜の午後一時半から、互いの生きづらさや、会社や福祉事業所の利用上の人間関係の悩みの話を分かち合っています。話題に発達障害の特性が語られます。

② 精神障害を抱える当事者の
集まり、日時・第四火曜の午後一

時から、病気の症状からくる悩みや、日中活動の人間関係について互いに話を分かち合っています。グレーゾーンの方も受け入れています。

③ 障害者の「おやじの会」の集まり、日時・第一土曜の昼十二時

まり、日時・第一土曜の昼十二時から、精神や発達の家族会は、母親の方が多く、父親は遠慮がちになります。そこで、父親が自分の思いを語れる場として設けられています。昼食のお弁当を各自持参し、飲み物としてお酒・ビールも持参可能です。

④ 「家族にひきこもりの方がいる」悩みを持つ人たちの集まり、

日時・第一水曜日の午後一時半か



ら。学校に行けなくなった、仕事ができなくなった、家族のストレスで外に出られなくなった・などの理由で、ひきこもりの状態にある方が家庭やアパートで暮らしておられる方があって、心配している家族の集まりです。

⑤ 「障害の内容も本人が家族かも問わない」こころの泉会の集まり、日時・第二木曜午前十時半から開いています。三十年以上の歴史を持つ集まりで、障害者への心配だけでなく、自分自身のことについても話題にしています。家族も本人もというのが特色です。

☆今後開きたい集まり



ほっとスペース流山は、流山市民の方だけを対象としていません。柏市でも我孫子市でも野田市でも松戸市でも三郷市などでも、「生きづらさ」に悩む方を受け入れます。よって、「必要があればサークルを作る」ことを目指します。最初は一人から始まりますが、そのうちに数人となって行くことを目標とします。今後作りたいと願っている小グループの一例を挙げましょう。

・幼児から高校までの子どもさん

が、発達障害もしくはグレーゾーンと思われるご家族の方たちの集まり、互いの心配を分かち合い、解決策を探しましょう。

・LGBTQ+の本人の交流、私たちの周囲には十五人に一人の、当事者の方がおられるといわれますが、偏見や差別にさらされているため、容易に人に話せないのです、守られた環境を作って交流。

・孤独を感じていて、話し相手が必要と願っている人たちの集まり、今の時代は、人間関係が希薄です。このため、孤立・孤独を感じながら生活されている方が増加しています。そこで、年齢・性別・障害の有無を問わず、世間話が必要としている方たちの集まり。

☆休息の場として「ショートステイ」を提供中

ショートステイの部屋は二室あります。一泊から一か月程度まで可能です。家族からしばらく離れる休息の場として、言葉や暴力によるダメージを受けている方の避難所・休憩所として。また事情があつて住まいを失った方が次の落ち着きどころが決まるまでの間・等の理由で、利用ができた

す。専任の職員はいませんので、自分で食事や洗濯や買い物をしていただくことが必要です。一泊・一五〇〇円です。ホームページに写真は載せていませんので、心配な方は前もつての見学をお勧めします。

また、一階にはミーティング室がありますので、一人で過ごす場所として、数人の人が集まる交流の場として、また学習会の場として、利用が可能です。部屋が空いているかを事前に問い合わせてください。



☆発達障害者家族会の「定例会」のご案内です！

※定期の集まりの紹介

・家族会 毎月第二土曜日朝十時から、初石公民館にて
・当事者会 毎月第四日曜午後一時半～ ほっとスペース
勝本 090-3696-1589

☆精神障害者家族会「流山よつば会」の案内

・家族会 毎月第四金曜日朝十時から、初石公民館にて
流山市が流山社協に委託されている、生きづらさを抱えている方への支援事業・「よりそいサポ

ートセンター」も、活用されることをお勧めします。

☆先人の言葉



・大切なのは、できないことを自分一人で抱え込むのではなく、他者にむけて、SOSを発信することによって、他者と共にケアしあう関係性を生み出すことです。そして、これこそ、今の日本社会で求められている価値観でもあります。竹端寛氏のことは。

・愛とは、相手が相手らしく幸せになることを喜ぶ気持ちである。欲望とは、相手がこちらの思い通りになることを強要する気持ちである。

・真の援助とは、クライアント自身にも、畑になり得る豊かな土地があることを示し、そこでいかに作物を育てて収穫をするのかを指導することです。ただ、作物を与えるだけでは、依存を強めて不安を増すだけです。（何か、人への支援に似ている）

・私が一番気に入っているケアの定義は、「宅老所はいこんちよ」の代表をされている、小林敏志さんの「ままならぬものに巻き込まれること」です。